

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 細馬 康二	電話番号	0852-22-5311
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	普及指導体制強化事業		
目的	(1) 対象	漁業者	
	(2) 意図	漁業経営の安定	
事業概要	各地域の漁業者ニーズを把握し、求められている情報の提供、新技術・技術改良の指導を担う立場である水産業普及員の積極的な活動を推進する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	普及した技術の定着数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		3.00	3.00	3.00	3.00	
式・定義	普及した技術の定着数		実績値	2.00	3.00	3.00	2.00		
			達成率		100.00	100.00	66.70		%
指標名	学習会等実施件数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		10.00	10.00	10.00	10.00		件
式・定義	学習会等実施件数		実績値	10.00	12.00	10.00	13.00		
			達成率		120.00	100.00	130.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	4,208	3,535
うち一般財源(千円)	2,208	1,535

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

地域の声、ニーズに対応した、漁労等に係る新技術の導入・普及の定着を図ることができ、また、新技術の知見習得のための学習会等を開催することができた。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・従来方法（延縄式）以外の方法（ブリ網）での藻類養殖が可能となった。
 ・現在の多様なニーズに応えるため、学習会等を通じて知見や技術の習得につながった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

新技術の導入を図るべく取組を始めても、定着できない場合、もしくは、定着、実用化までに時間を要する。

②困っている状況が発生している「原因」

海象も含めて地域特性が異なることから、均一的に技術を導入することが困難。

③原因を解消するための「課題」

地域特性に合った技術を確立する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

数年にわたって実証的取組を続け、データ、知見の集積により技術改良を行う。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）